取扱説明書

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/

カスタマーサポートセンター

フリーコール **0120-944-222**

一般電話　03-5496-2986

受付時間
月曜～金曜
9:30～18:00
土曜・日曜・祝日
9:30～12:00、13:00～17:00
(弊社休業日を除きます。)

※ フリーコールは、携帯電話・PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話・PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。

5.1 ch サラウンドシステム

HTP-LX51

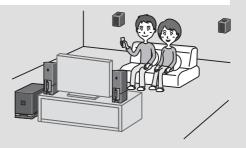
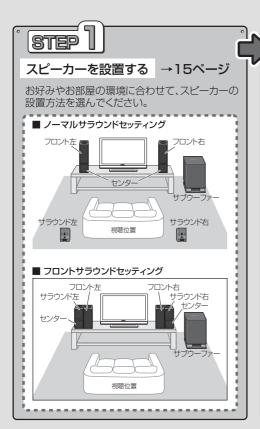
すぐに使いたい！

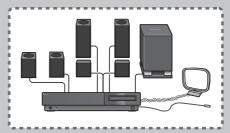
本機を以下の手順で設置・接続や設定を行うだけで、簡単に迫力あるサラウンドを楽しむことができます。
サラウンドの自動設定を行えば、数分でお部屋に合わせた最適なリスニング環境が整います。

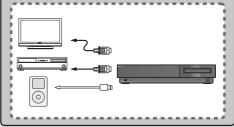
STEP 1

スピーカーを設置する →15ページ

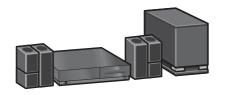
お好みやお部屋の環境に合わせて、スピーカーの設置方法を選んでください。

STEP 2

本機を接続する →18ページ

スピーカーやアンテナを接続します。

機器を接続する →22、46ページ

お手持ちのテレビやブルーレイディスクプレーヤー、iPodなどを本機に接続します。

HDMIコントロール機能に対応したパイオニア製フラットテレビやブルーレイディスクプレーヤーなどと接続すると、これらの機器との連動動作が可能になります。

詳しくは「HDMIコントロール機能でHDMI機器を連動動作させる」（51ページ）をご覧ください。

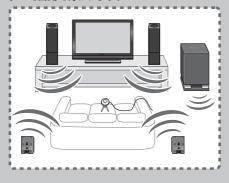
故障かな?と思ったら…

電源が入らない、音が出ない、
などでお困りのときは

→60ページ

STEP3

サラウンドの自動設定を行う

→26ページ

お部屋の音響特性を高精度に測定し、最適なサラウンド設定を行います。4分～5分半の時間ですべて自動で行われます。

ホームシアターが完成！

最適な環境で迫力あるサラウンドをお楽しみください。

本機の入力を切り換える →29ページ

リスニングモードを選択する

→33ページ

シーンやお好みで選べる以下のリスニングモードが豊富に用意されています。

・サラウンドモード
・アドバンスドサラウンドモード
・フロントサラウンド･アドバンスモード
（フロントサラウンドセッティング時）

さらに…

他にも、さまざまなサウンド機能を選んだり、設定を行うことが可能です。→41ページ

• ここでは、本機でサラウンド再生を楽しむまでの基本的な手順を示しています。ご使用の前に、本書を最後までよくお読みください。

もくじ

このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

準備

設置と接続

基本設定と操作

サラウンド再生

他機器の接続

その他

困ったとき

付録

付属品を確認する

レシーバー部の付属品

リモコン × 1

単 3 形乾電池
（動作確認用）× 2

AM ループアンテナ × 1

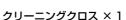
FM 簡易アンテナ × 1

HDMI ケーブル × 2

MCACC セットアップ用マイク × 1

電源コード × 1

スピーカーコードアダプター × 5

クリーニングクロス × 1

保証書

取扱説明書（本書）

スピーカー部の付属品

フロントスピーカー × 2

センタースピーカー × 2

サラウンドスピーカー × 2

滑り止めパッド
（サテライトスピーカー用）× 24

滑り止めパッド
（サブウーファー用）× 4

サブウーファー × 1

ブラケット × 2

ネジ ×4

らせんチューブ ×2

スピーカーコード

4 m/ 赤色（フロントスピーカー右用）× 1
4 m/ 白色（フロントスピーカー左用）× 1
4 m/ 緑色（センタースピーカー用 / 分岐タイプ）× 1
10 m/ 灰色（サラウンドスピーカー右用）× 1
10 m/ 青色（サラウンドスピーカー左用）× 1
4 m および 10 m/ 紫色（サブウーファー用）×各 1

リモコンに電池を入れる

1. 矢印の方向に、裏ブタを開く

2. ケース内に表記されている極性に合わせて、乾電池を入れる

3. 裏ブタを閉める

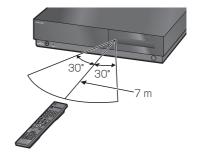
⚠警告

- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

ご注意

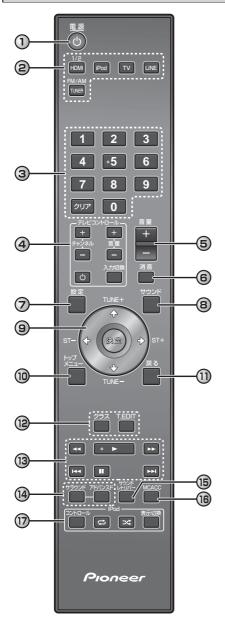
- 乾電池のプラス(+)とマイナス(－)の向きを、電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 か月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの操作範囲

リモコンは、本体のリモコン受光部から約 7 m、左右 30°以内の距離から操作してください。

お知らせ

- 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

各部の名前とはたらき

リモコン

1　⏻ 電源ボタン
電源をオン/オフ(スタンバイモード)します。

2　入力切り換えボタン
再生したい入力（HDMI1/2、iPod、TV、LINE、TUNER）を選びます。ＴＶボタンの設定については、「テレビ音声入力の設定」をご覧ください。(29 ページ)

3　数字 / クリアボタン

4　テレビコントロールボタン (28 ページ)

チャンネル ＋ / －
テレビのチャンネルを変更します。

(テレビ) 音量 ＋ / －
テレビの音量を調節します。

⏻
テレビの電源を入 / 切します。

入力切換
テレビの入力を切り換えます。

5　音量 ＋ / －
本機の音量を調節します。

6　消音
音を一時的に消すときに使用します。もう一度押すと､元の音量に戻ります。

7　設定
サラウンドやラジオの設定などを行うときに使用します。

8　サウンド
各種音質の設定や調整を行います。(37 ページ)

9 ⬆/⬇/⬅/➡/ 決定ボタン

各種設定およびモードの選択や切り換え、決定などに使用します。

TUNE ＋ / －ボタン

ラジオの周波数を合わせます。（30 ページ）

ST ＋ / －ボタン

記憶したラジオ放送局を呼び出します。（31 ページ）

10 トップメニュー

iPod を接続しているときに、iPod のトップメニュー表示にします。（47 ページ）

11 戻る

メニュー画面で 1 つ前の画面 / 項目に戻ります。

12 クラス

ラジオの放送局を記憶させるクラスを指定したり、呼び出したりするときに使用します。（31 ページ）

T.EDIT

ラジオの放送局を記憶させるときに使用します。（31 ページ）

13 再生操作ボタン

iPod の再生操作に使用します。（47 ページ）

14 リスニングモード切り換えボタン

サラウンド

リスニングモードをサラウンドモードの中から選択します。（34 ページ）

アドバンスド

リスニングモードを、アドバンスドサラウンドモードまたはフロントサラウンド・アドバンスモードの中から選択します。（35、36 ページ）

15 サウンドレトリバー

サウンドレトリバー機能の切り換えを行うときに使用します。（40 ページ）

16 MCACC

サラウンドの自動設定を行うときに使用します。（26 ページ）

17 iPod 操作ボタン（47 ページ）

コントロール

iPod の操作を本機側と iPod 側とで切り換えます。

🔁

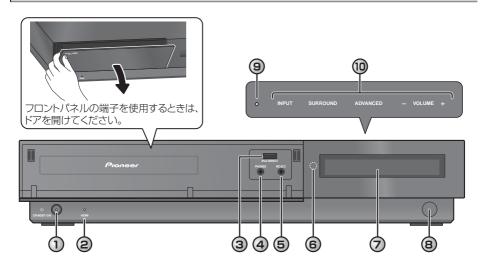
iPod の曲をリピート再生します。

🔀

iPod の曲をシャッフル再生します。

表示切換

iPod の曲を再生中に、ディスプレイの表示内容を切り換えます。

本体前面部

1 ⏻ STANDBY/ON ボタン

電源をオン / オフ (スタンバイモード) します。電源をオンにすると、インジケーターが点灯します。

2 HDMI インジケーター

HDMI(HDCP) 規格に対応した機器と接続しているときに点灯します。また、本機の電源コードをコンセントに接続した直後の、初期動作を行っている間に点滅します。(49 ページ)

3 iPod DIRECT 端子

iPod を接続します。(46 ページ)

4 PHONES（ヘッドホン）端子

市販のヘッドホンを接続します。インピーダンス 16 Ω ～ 50 Ω（推奨 32 Ω)、直径Φ 3.5 ステレオミニプラグ付のヘッドホンをお使いください。
ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は出ません。(36 ページ)

5 MCACC 端子

付属のマイクを接続してサラウンドの自動設定を行うときに使用します。(26 ページ)

6 リモコン受光部（7 ページ）

7 表示部（12 ページ）

8 モーションセンサー

表示部の設定（58 ページ）を Auto Display にすると、約 1 分間操作しなかった場合に表示部が消灯します。モーションセンサーで人の動きを感知すると、再び表示します。

9 アクションインジケーター

タッチセンサーで操作したときに点灯します。

10 タッチセンサー

文字やマークの中央部分を軽く触れて操作します。

INPUT

本機の入力を切り換えます。

SURROUND

リスニングモードをサラウンドモードの中から選択します。

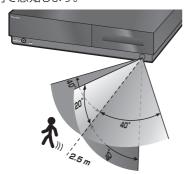
ADVANCED

リスニングモードを、アドバンスドサラウンドモードまたはフロントサラウンド・アドバンスモードの中から選択します。

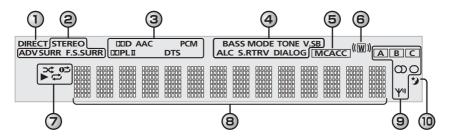
VOLUME ＋ / －

音量を調節します。

モーションセンサーについて

モーションセンサーは、40°（上方向は 20°）、2.5 m以内の距離で人の動きを感知します。ただし、本機に向かってくる人の動きは 0.7 m以内で感知します。

⚠ 注 意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

表示部

1 DIRECT

ダイレクトサウンドを選択しているとき（エフェクティブサウンドがオフのとき）に点灯します。(45ページ)

2 リスニングモードインジケーター

STEREO

ステレオモードを選択しているときや、オートモードでステレオ音声を再生しているときに点灯します。(34ページ)

ADV SURR

アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに点灯します。（35ページ)

F.S.SURR

フロントサラウンド･アドバンスモードを選択しているときに点灯します。(36ページ)

3 DD D

ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。（34ページ)

DD PLII

ドルビープロロジックII処理が行われているときに点灯します。(34ページ)

AAC

MPEG-2 AAC信号を再生しているときに点灯します。

PCM

PCM信号を再生しているときに点灯します。

DTS

DTS信号を再生しているときに点灯します。

4 BASS MODE

低音の強調処理が働いているときに点灯します。（38ページ)

TONE

低音/高音の調整またはミッドナイト、マナーモードを設定しているときに点灯します。（38ページ)

V.SB

バーチャルサラウンドバック機能が働いているときに点灯します。（44ページ)

ALC

オートレベルコントロールモードで再生しているときに点灯します。(34ページ)

S.RTRV

サウンドレトリバー機能が働いているときに点灯します。（40ページ)

DIALOG
ダイアログの調整機能が働いているときに点灯します。（38 ページ）

5 MCACC
アコースティック EQ 機能が働いているときに点灯します。（39 ページ）
また、サラウンドの自動設定中に点滅します。（26 ページ）

6
別売りのワイヤレススピーカーシステム「XW-1」用のワイヤレスモードを設定しているときに点灯または点滅します。（56 ページ）
ワイヤレススピーカーシステムを使用していない状態でインジケーターが表示された場合は、「故障かな？と思ったら」(60 ページ) をご覧ください。

7 iPod インジケーター (46 ページ)

▶
曲を再生しているときに点灯します。
また、一時停止中に点滅します。

シャッフル再生に設定しているときに点灯します。

リピート再生に設定しているときに点灯します。

1 曲リピート再生に設定しているときに点灯します。

8 キャラクター表示部
操作中の情報やリスニングモードなどを表示します。

9 チューナーインジケーター (30 ページ)

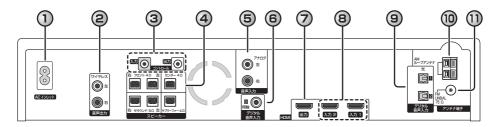
FM/AM 放送受信時に点灯します。

FM 放送でステレオ受信をしているときに点灯します。

FM 放送の受信設定をモノラルに設定しているときに点灯します。

A、B、C
放送局を記憶させたクラスを表示します。

10
スリープタイマー設定時に点灯します。(57 ページ)

本体背面部

1　AC インレット
付属の電源コードを接続します。(25 ページ)

2　音声出力（ワイヤレス）端子
別売りのワイヤレススピーカーシステム「XW-1」を接続します。(56 ページ)
- ワイヤレススピーカーシステム「XW-1」以外の機器は、この端子に接続しないでください。

3　コントロール入出力端子
コントロール入出力端子を持つ他のパイオニア製機器を接続します。(55 ページ)

4　スピーカー端子
付属のスピーカーを接続します。(18 ページ)

5　音声入力（アナログ）端子
市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）を使用して、オーディオ機器を接続します。(24 ページ)
この入力に切り換えるには、**Analog** を選択します。

6　デジタル音声入力（同軸）端子
テレビや DVD プレーヤー、BS/CS チューナー、ゲーム機などのデジタル音声出力のある機器を接続します。(22、24 ページ)
この入力に切り換えるには、**Digital 3 COAX** を選択します。

7　HDMI 出力端子
HDMI 入力端子を持つテレビを接続します。(23、49 ページ)

8　HDMI 入力端子
HDMI 出力端子を持つ AV 機器を接続して、本機で高音質に再生することができます。(23、49 ページ)
この入力に切り換えるには、**HDMI 1** または **HDMI 2** を選択します。

9　デジタル音声入力（光）端子
テレビや DVD プレーヤー、BS/CS チューナー、ゲーム機などのデジタル音声出力のある機器を接続します。(22、24 ページ)
この入力に切り換えるには、**Digital 1 OPT** または **Digital 2 OPT** を選択します。

10　AM ループアンテナ端子
付属の AM ループアンテナを接続します。(20 ページ)

11　FM アンテナ端子
付属のFM簡易アンテナを接続します。(20 ページ)

スピーカーを設置する

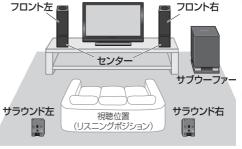
スピーカーの設置方法を選ぶ

本機のスピーカーは、「ノーマルサラウンドセッティング」と「フロントサラウンドセッティング」の２つの設置方法を選ぶことができます。お客様のお好みやお部屋の環境に合わせてお選びください。

ノーマルサラウンドセッティング

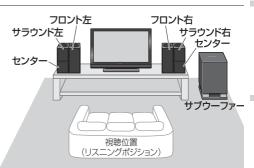
視聴位置 (リスニングポジション) の後方にサラウンドスピーカーを設置する、本格的な 5.1 チャンネルサラウンドの設置方法です。このセッティングでは、「サラウンドモード」(34 ページ) または「アドバンスドサラウンドモード」(35 ページ) からお好きなリスニングモードを選んでお楽しみください。

● 左右に置いたスピーカーは、間隔を 1.8 m ～ 2.7 m 程度離して、テレビから等距離で同じ高さになるように設置してください。
● サラウンドスピーカーは、別売りのスピーカースタンドなどを使用して、耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
● サラウンドスピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。

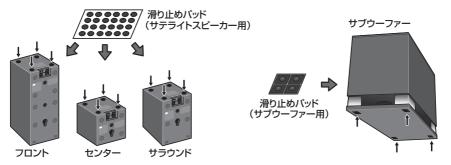
※センタースピーカーを独立して中央に置く場合

フロントサラウンドセッティング

サラウンドスピーカーを前面の左右に置いて、お部屋をすっきりできる設置方法です。このセッティングでは、リスニングモードは「フロントサラウンド･アドバンスモード」(36 ページ) を選んで、高いサラウンド効果をお楽しみください。

●左右に置いたスピーカーは、間隔を 1.5 m 程度離して、テレビから等距離で同じ高さになるように設置してください。

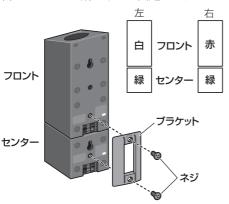
※センタースピーカーを独立して中央に置く場合

スピーカーの準備をする

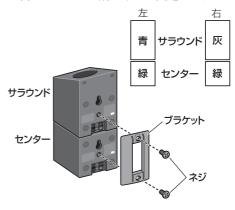
1 スピーカーに滑り止めパッドを貼る

フロント、センターおよびサラウンドスピーカーの底面に滑り止めパッド (サテライトスピーカー用) を、サブウーファーの底面に滑り止めパッド (サブウーファー用) を貼り付けます（各 4 カ所）。

2 センタースピーカーを左右に置く場合、スピーカーを積み重ねてブラケットで固定する

- それぞれのスピーカーは背面ラベルで色分けされています。色表示を確認して、間違えないようにスピーカーを固定してください。

ノーマルサラウンドセッティングの場合

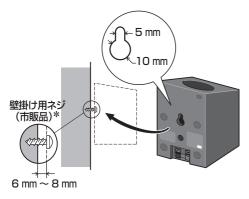
スピーカーを下からセンター、フロントスピーカーの順番に積み重ね、それぞれのスピーカー背面のネジの位置にブラケットを合わせて、2 カ所をネジで固定します。

フロントサラウンドセッティングの場合

スピーカーを下からセンター、サラウンドスピーカーの順番に積み重ね、それぞれのスピーカー背面のネジの位置にブラケットを合わせて、2 カ所をネジで固定します。

ご注意

- スピーカーを積み重ねる場合は、必ずブラケットを使用してください。また、ブラケットを使用した状態でスピーカーを持ち運ばないでください。ブラケットの破損や、スピーカーの落下によるケガなどの危険性があります。
- センタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- スピーカーをぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のフロント、センターおよびサラウンドスピーカーはテレビとの近接使用が可能なスピーカーですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15 分～ 30 分後再びスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、スピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。
- 本機のサブウーファーはテレビとの近接使用ができませんので、テレビから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のサブウーファーから離してお使いください。
  近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- サブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。

スピーカーを壁に掛けて使う

フロント、センターおよびサラウンドスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、以下のように取り付けてください。

スピーカーを壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いとスピーカーの重みに耐えられず、壁に掛けたスピーカーが落下する恐れがあります。

*壁掛け用ネジは付属品ではありません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重みに耐えられるものをお使いください。

お知らせ

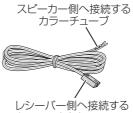
- スピーカーをブラケットで固定した状態で壁に取り付けないでください。
- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

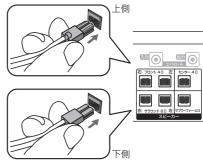
本機を接続する

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

スピーカーを接続する

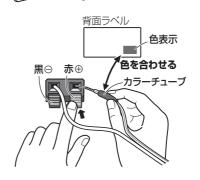
スピーカーコードはカラーコネクターが付いている方をレシーバーに、カラーチューブが付いている方をスピーカーに接続します。

- サブウーファー用のケーブル（紫色）は、長さ４ｍと10ｍの２種類が付属しています。サブウーファーの設置場所によって、必要な長さのケーブルを使用してください。

1 スピーカーコードのカラーコネクターを、レシーバーの同じ色のスピーカー端子に差し込む

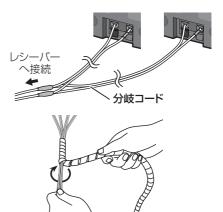
スピーカー端子は上側と下側とで向きが異なるため、カラーコネクターの向きを確認して差し込んでください。

2 スピーカーコードのカラーチューブの付いている方を、スピーカーの背面端子に接続する

先端の被覆は、ねじりながら引き抜きます。

スピーカー背面ラベルの色表示と、スピーカーコードのカラーチューブの色が合っていることをよく確認して、スピーカー端子のツメを押しながら芯線を端子に差し込みます。

スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の＋側（赤）、カラーチューブのない方を－側（黒）に接続してください。

センタースピーカーの接続には分岐タイプのコードを使用します。緑色のカラーチューブが付いている方を、センタースピーカーの背面端子に 2 台とも接続してください。

スピーカーコードの接続がすべて終わったら、付属のらせんチューブを使用してコードをまとめます。

複数のコードをまとめて持ち、チューブの先端をコードに引っかけて、らせん状に巻き込みます。チューブはお好みの長さに切ってご使用ください。

お知らせ

- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカー以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- レシーバーと接続したとき、スピーカーシステム極性 (+、－) を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

お手持ちのスピーカーコードを使用する

お手持ちのスピーカーコードを使用してスピーカーを接続できます。付属のスピーカーコードアダプターにお手持ちのコードをつないで使用してください。

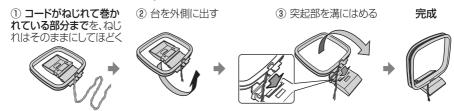
1 スピーカーコードアダプターの 2 つのボタンを押しながら、お手持ちのスピーカーコードを差し込む

• スピーカーコードアダプターは以下のように色分けされています。

フロント左用：**白**
フロント右用：**赤**
サラウンド左用：**青**
サラウンド右用：**灰**
サブウーファー用：**紫**

お知らせ

- センタースピーカーの接続には、付属の分岐タイプのスピーカーコードを使用してください。
- アダプターの極性表示(+/ －)を確認して、コードと極性を合わせて差し込んでください。
- コードを差し込んだら、軽く引っ張ってコードが抜けないことを確認してください。
- コードの芯線どうしが接触しないようにしてください。
- スピーカーコードは、0.3 sq(22 ゲージ相当)から 1.0 sq（17 ゲージ相当）まで使用できます。

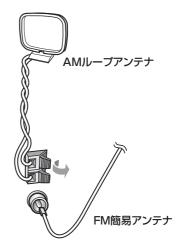
アンテナを接続する

1 AM ループアンテナを組み立てる

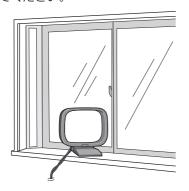
壁に取り付けるには...

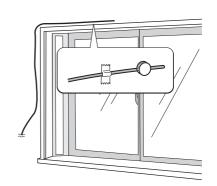
市販のネジや画びょうなどを使って、壁に取り付けてから組み立てます。

2 AM ループアンテナと FM 簡易アンテナを接続する

① AM ループアンテナ接続端子のツメを押しながら、AM ループアンテナのケーブルを端子に差し込みます。ケーブルを差し込んだらツメから指を離します。

② FM 簡易アンテナは、中央のピンに差し込んでください。

AM ループアンテナについて

- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機やコード類から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコンやテレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。
- できるだけ窓の近くに置くなど、場所や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

FM 簡易アンテナについて

- 付属の FM 簡易アンテナは、たらしておいたり丸めたままにしないで、最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。
- 付属の FM 簡易アンテナは、FM 放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。(55 ページ)

お知らせ

- 付属のアンテナまたは「外部アンテナを接続する」(55 ページ) で説明している以外のアンテナの接続は行わないでください。
- アンテナはレシーバーや各接続ケーブルから離した場所に置いてください。
- 付属のアンテナでよく聞こえないときは、「FM 放送の雑音を減らす」や「AM 放送の雑音を減らす」(30 ページ) を参照して操作するか、55 ページを参照して外部アンテナを接続します。

機器を接続する

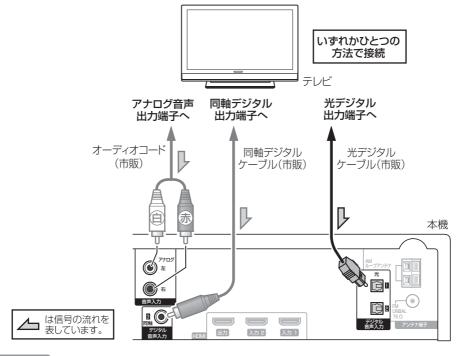
テレビを接続する（テレビの音声を本機で聞く）

映画や歌謡曲などのテレビ番組を本機で高音質に楽しむには、テレビの音声を本機に入力します。

- テレビと HDMI ケーブルで接続しても、本機からテレビの音声は出ません。ここでの音声ケーブルによる接続を行ってください。

1 本機のデジタル 1(光) 端子と、テレビの光デジタル音声出力を接続する

接続には市販の光デジタルケーブルを使用します。デジタル 2(光) 端子にも接続できます。

- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機のデジタル 3(同軸) 端子に接続することもできます。テレビにデジタル出力端子が無い場合は、市販のアナログオーディオコードでも接続できます。
- テレビを接続した場合は、テレビ音声入力の設定（29 ページ）を行ってください。

お知らせ

- テレビにデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMI 対応の機器やテレビを接続する

- HDMI 入力端子のないテレビは、本機と接続することはできません。

接続には付属の HDMI ケーブルを使用します。

テレビの音声を本機で聞くには、市販の音声ケーブルを使用して本機の音声入力端子と接続します。「テレビを接続する（テレビの音声を本機で聞く）」（22 ページ）を参照してください。

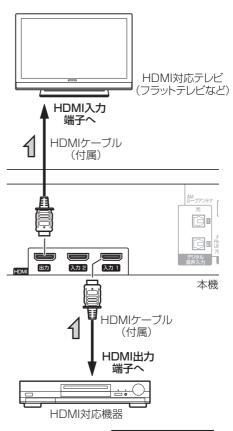
1 本機の HDMI 入力 1 または 2 端子と、HDMI 対応機器の HDMI 出力を接続する

2 本機の HDMI 出力端子と、HDMI 対応テレビの HDMI 入力を接続する

- HDMI コントロール機能をご使用の場合は、「テレビ音声入力の設定」（29 ページ）および「HDMI コントロール機能で HDMI 機器を連動動作させる」（51 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 接続した機器に、HDMI 音声出力またはデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の HDMI 出力からは、HDMI 入力で接続された機器の映像、音声のみ出力されます。

は信号の流れを表しています。

音声機器をアナログ接続する

カセットデッキや CD、MD プレーヤーなどのアナログ音声出力のある機器を接続します。

1. **本機のアナログ音声入力端子と、接続機器のアナログ音声出力を接続する**

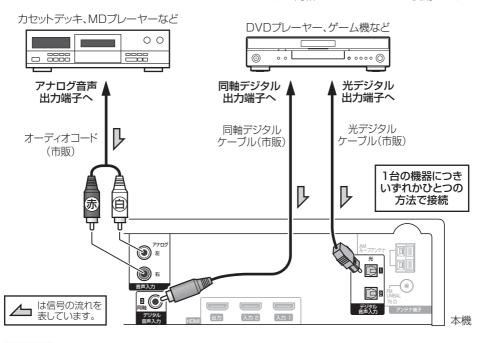
   接続には市販のオーディオコードを使用します。

音声機器をデジタル接続する

DVD プレーヤー、BS/CS チューナー、ゲーム機などのデジタル音声出力のある機器を接続します。

- 外部機器と HDMI ケーブルで接続している場合は、ここでの音声ケーブルによる接続は必要ありません。

1. **本機のデジタル 1(光)、デジタル 2(光) またはデジタル 3(同軸) 端子と、接続機器のデジタル音声出力を接続する**

   接続には、市販の光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルを使用します。

お知らせ

- 映像出力端子がある機器の場合は、映像信号をテレビに直接接続してください。
- 接続した機器にデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

電源コードをつなぐ

電源コードを本体の AC インレットに差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。テレビと接続している場合は、あとからテレビの電源コードをコンセントに接続してください。

本機の電源コードをコンセントに接続すると、約 15 秒程度本機の初期動作を行い、この間はフロントパネルの HDMI インジケーターが点滅します。点滅が終わってから、本機の電源をオンにしてください。

サラウンドの自動設定（Auto MCACC）

本機の Auto MCACC では、従来の手動調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、４分〜５分半程度です。

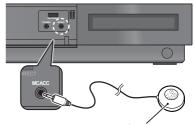
ご注意

- 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。
- 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- 付属のマイクをテレビモニター近くに置いてセットアップを行わないでください。

お知らせ

- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーと視聴位置（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- 測定中は視聴位置から離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- Auto MCACC を行うと、手動で調整した以下の内容もすべてリセットされます。
  ・スピーカー出力レベル (41 ページ)
  ・各スピーカーまでの距離 (42 ページ)

1 セットアップ用マイクを接続する

フロントパネルドアの内側にある MCACC 端子に接続します。

セットアップ用マイク

2 マイクを視聴位置に設置する

マイクは視聴位置（耳の位置）に三脚や台などを使って水平になるように設置します。

3 電源 を押す

本機の電源がオンになります。

4 MCACC を押す

「MCACC Setup」と表示されて、自動設定が始まります。次に音量が自動的に上がり、「Please Wait」と表示されてテストトーンが出力されます。

自動設定が終了するまで４分〜５分半程度かかります。測定中は、さまざまなメッセージが表示されます。

5 「Complete」と表示されたら、セットアップ用マイクを抜く

自動設定が終了し、開始する前の音量に戻ります。

「Complete」と表示されず中断したとき

スピーカーやセットアップ用マイクの接続を確認し、もう一度はじめから自動設定をやり直してください。

エラーメッセージが表示されたとき

自動設定中に以下のエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認して対策を行ってください。

エラー表示	原因 / 対策
Noisy! ↓ Retry	部屋の騒音レベルが大きい。 静かにしてから決定を押してください。
Error MIC! ↓ Check MIC	セットアップ用マイクが接続されていません。 セットアップ用マイクを接続してから決定を押してください。
Error Speaker! ↓ Check Speaker	接続されていないスピーカーがあります。 すべてのスピーカーを配置、接続してから決定を押してください。

対策を行っても正しく終了しないときは、MCACC を押して自動設定を中断したあと、電源を押して本機の電源をオフにし、もう一度接続を確認してから、手順 3 から操作してください。

お知らせ

- 自動設定中は、以下のメッセージが表示されます。
  「Now Analyzing」⇔「Ambient Noise」
  ：部屋の騒音をチェック中
  「Now Analyzing」⇔「MIC Check」
  ：マイクの接続をチェック中
  「Now Analyzing」⇔「Speaker Check」
  ：すべてのスピーカーの接続をチェック中
  「Now Analyzing」⇔「Distance」
  ：各スピーカーまでの距離を解析中
  「Now Analyzing」⇔「Channel Level」
  ：各スピーカーの出力バランスを補正中
  「Now Analyzing」⇔「Reverb」
  ：各スピーカーの残響特性の測定
  「Now Analyzing」⇔「EQ Pro」
  ：出力音声の音色を統一
- 自動設定が終了すると、アコースティック EQ が自動的にオンになります。アコースティック EQ のオン / オフについては 39 ページをご覧ください。
- 操作が禁止されているときに MCACC を押すと、警告メッセージが点滅します。(64 ページ)

本機のリモコンでテレビを操作する

お使いのテレビのメーカーのメーカーコードを本機のリモコンに設定すると、本機のリモコンでお使いのテレビを操作できます。

1 **クリアを押しながら、数字ボタン（0～9）でテレビのメーカーコードを入力して、決定を押す**

2 **テレビを操作できるか確認する**

リモコンをテレビに向けて**テレビコントロール**⏻を押したときに、テレビの電源を操作できることを確認してください。

- ひとつのメーカーに複数のコードがあるときは、操作できるまで順にコードを設定してください。

メーカーコード表

メーカー	コード
アイワ	660
富士通	648
フナイ	640, 658
GE	611, 628
Goldstar	610, 623, 650
日立	606, 624, 625, 633, 634, 654
ビクター	613
三菱	609
NEC	659
パナソニック	608, 622
フィリップス	607, 656, 668
RCA	601, 615, 616, 617, 618, 661, 662
サムスン	644, 646, 669, 670
サンヨー	614, 621, 645
シャープ	602, 619, 627, 667
ソニー	604
東芝	605, 626
ユニデン	671
パイオニア	600, 651

本機の入力を切り換える

本機に接続した他機器の音声やラジオなどの入力を切り換えます。テレビの音声を聞くには、はじめにテレビ音声入力の設定を行ってください。

1 [HDMI 1/2] [iPod] [TV] [LINE] [TUNER FM/AM]
リモコンの入力切り換えボタンを押して、聞きたい入力を選ぶ

本体の INPUT ボタンでも入力を選ぶことができます。

テレビの音声を聞くには

[TV]を押します。「テレビ音声入力の設定」（右記）で設定した入力に切り換わります。

HDMI 機器の音声を聞くには

[HDMI 1/2]を繰り返し押して、HDMI1 または 2 から機器を接続した入力を選びます。

アナログ接続した機器の音声を聞くには

[LINE]を繰り返し押して、Analog を選びます。

デジタル接続した機器の音声を聞くには

[LINE]を繰り返し押して、Digital 1 OPT、Digital 2 OPT、Digital 3 COAX の中から機器を接続した入力を選びます。

テレビ音声入力の設定

テレビを接続した入力端子を指定します。この設定を行うと、リモコンの[TV]を押したときに本機の入力がテレビの音声に切り換わります。

1 [設定]**を押す**

2 [決定]**で [System Setup] を選んで決定する**

3 [決定]**で [TV Input] を選んで決定する**

4 [決定]**で設定を選んで決定する**

基本設定と操作

ラジオを聞く

アンテナが接続されていないと、FM/AM 放送を聞くことはできません。20 ページを参照して、アンテナを接続してください。

1 FM/AM TUNER **を押す**

ラジオが聞ける状態になります。

FM	76.00MHz

AM	522kHz

FM/AM TUNER を押すたびに、FM と AM が切り換わります。

FM 放送を聞くときは FM を、AM 放送を聞くときは AM を選択してください。

2 TUNE+ TUNE− **で聞きたい放送局に周波数を合わせる**

オートチューニング

TUNE + / −ボタンを押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。

途中で止めるときは、もう一度 **TUNE + / −ボタン**を押すか、決定を押します。

マニュアルチューニング

TUNE + / −ボタンを 1 回ずつ押します。

周波数が 1 ステップずつ変化します。

ハイスピードマニュアルチューニング

TUNE + / −ボタンを押し続けます。

ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

FM 放送の雑音を減らす

遠い放送局や電波の弱い地域などで、FM のステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくすることができます。

通常は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える **FM Auto** に設定してください。

1 FM/AM TUNER **を押して FM 放送を受信する**

2 設定 **を押す**

3 決定 **で [Tuner Setup] を選んで決定する**

4 決定 **で [FM Auto/Mono] を選んで決定する**

5 決定 **で [FM Mono] を選んで決定する**

AM 放送の雑音を減らす

1 FM/AM TUNER **を押して AM 放送を受信する**

2 設定 **を押す**

3 決定 **で [Tuner Setup] を選んで決定する**

4 で [Noise Cut] を選んで決定する

5 で設定を選んで決定する

N.Cut Mode1 から N.Cut Mode3 まで選ぶことができます。

雑音が最も小さい設定を選んでください。

放送局を記憶させる

受信した放送局を記憶させる

本機に放送局を記憶させて、あとから簡単に呼び出せます。3 つのクラスに 10 局ずつ、計 30 局までステーション（記憶番号）に記憶させることができます。

1 FM/AM TUNER を押して記憶させたい放送局を受信する

2 T.EDIT を押す

3 クラス でクラス（A、B、C）を選んでから、ST− ST+で記憶させるステーションを選ぶ

A1 FM 76.00MHz

ステーション番号は、**数字ボタン**で入力することもできます。

4 決定を押して記憶させる

お知らせ

- すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。

記憶させた放送局を呼び出す

1 FM/AM TUNER を押す

ラジオが聞ける状態にします。

2 ST− ST+で記憶させたステーションを選ぶ

リモコンの数字ボタンで呼び出す

1 FM/AM TUNER を押す

ラジオが聞ける状態にします。

2 クラス でクラス（A、B、C）を選んでから、数字ボタン（0 ～ 9）でステーションを選ぶ

準備
設置と接続
基本設定と操作
サラウンド再生
他機器の接続
その他
困ったとき
付録

サラウンド
再生

音源と音声出力について

「音源」と「音声出力」の違いを覚えてから、この章をお読みください。

音源

ラジオや外部入力などの、本機に入力される音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

ステレオ音声

左と右の2チャンネル音声です。主にCDやラジオ放送などで使われています。左と右が同じ音声をモノラル音声といいます。

マルチチャンネル音声

ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式にはドルビーデジタルやDTS、MPEG-2 AACなどがあります。主にDVDビデオなどで使われています。

音声出力

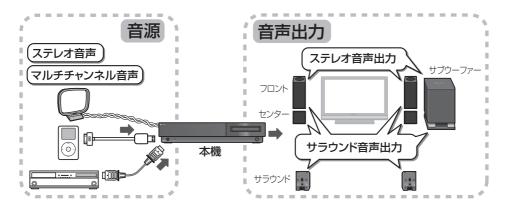
スピーカーから出力される音声です。本機には2つの音声出力があります。

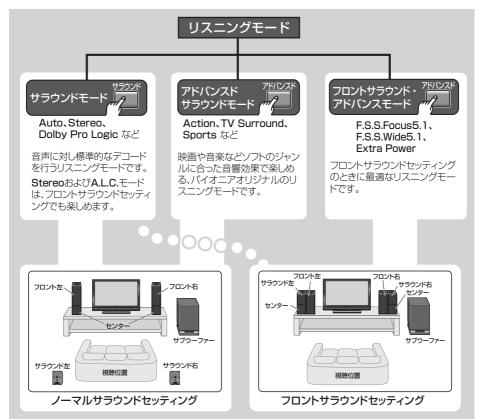
ステレオ音声出力 2.1ch

フロントスピーカー(左/右の2チャンネル)とサブウーファー(低音専用なので0.1チャンネルといいます)から音声が出力されます。センタースピーカーからは音声が出力されません。

サラウンド音声出力 5.1ch

フロントスピーカー(左/右の2チャンネル)、センタースピーカー(1チャンネル)、およびサラウンドスピーカー(左/右の2チャンネル)の合計5チャンネルと、サブウーファー(0.1チャンネル)から音声が出力されます※。音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センターおよびサラウンドの音声を作って出力されます。

※音源によっては、サラウンドスピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

リスニングモードを選択する

本機には、多彩な音響効果を楽しんだり、お好みで音場補正も可能な、さまざまなリスニングモードが下図のとおり用意されています。

スピーカーの配置をノーマルサラウンドセッティングにしている場合は、サラウンドモードまたはアドバンスドサラウンドモードの中から 1 つ選択することができます。

サラウンドスピーカーをお部屋の前方に置くフロントサラウンドセッティングにしている場合は、フロントサラウンド・アドバンスモードの中から 1 つ選択してください。

お知らせ

- 再生している音源や、HDMI 音声設定（49 ページ）の設定などによって、本機の機能が制限されることがあります。このとき、メニューが表示されなかったり、メッセージが表示されることがあります。(63 ページ)

サラウンドモードを選択する

ノーマルサラウンドセッティングのときに最適な効果を発揮します。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

1 サラウンド を押してリスニングモードを選ぶ

押すたびにモードが切り換わります。

モード表示中に でも切り換えることができます。

- ステレオ音声再生時は、表示部にSTEREOインジケーターが点灯します。

ステレオ音声再生時

● Auto 2.1ch
ステレオ再生（左右 2 つのフロントスピーカーとサブウーファーのみによる再生）します。

● DDPLII Movie 5.1ch
サラウンドチャンネルは定位や移動感を重視し、ドルビーデジタルなどに迫る音場を再現します。特にドルビーサラウンドで収録されている映画ソフトに最適です。

● DDPLII Music 5.1ch
サラウンドチャンネルは包囲感を重視しています。特に CD などの音楽に最適です。

● DDPro Logic 5.1ch
ドルビーサラウンドで収録されている音源に効果的です。（サラウンドチャンネルの音声はモノラルになります。）

● Stereo 2.1ch
ステレオ再生（左右 2 つのフロントスピーカーとサブウーファーのみによる再生）します。

● A.L.C. 2.1ch
ポータブルデジタルオーディオプレーヤーなどに録音された音楽ソースごとの音量差を、本機で自動的に均一にしてステレオ再生します。

マルチチャンネル音声再生時

● Auto 5.1ch
DVD ビデオなどのマルチチャンネル音声を音声収録方式に応じて出力します。

● Stereo 2.1ch
マルチチャンネル音声もステレオで出力します。

● A.L.C. 2.1ch
録音された音楽ソースごとの音量差を、本機で自動的に均一にしてステレオ再生します。

お知らせ

- Stereo および A.L.C. は、フロントサラウンドセッティング時にも使用できます。
- 入力している音声の種類によって、DD D、DTS、AAC、PCM インジケーターが点灯します。
- ドルビープロロジック II 処理が行われているときは、DD PLII インジケーターが点灯します。
- A.L.C. を選択すると、ALC インジケーターが点灯します。
- ドルビープロロジック II ミュージックモードには、さらに音響効果を加えることができます。(39 ページ)
- サンプリング周波数が 88.2 kHz/96 kHz 以上の音源を再生しているときは、自動的に Auto が選択されて、切り換えることができません。

アドバンスドサラウンドモードを選択する

ノーマルサラウンドセッティングのときに、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するリスニングモードです。

1 アドバンスド を押してリスニングモードを選ぶ

押すたびにモードが切り換わります。

モード表示中に でも切り換えることができます。

• 表示部にADV SURRインジケーターが点灯します。

● **Action** 5.1ch
アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を楽しめます。

● **Unplugged** 5.1ch
アコースティック系の音楽ソースに最適なモードです。

● **Expanded** 5.1ch
2チャンネルで収録された音声を、5.1チャンネルのサラウンド効果で再生できます。ドルビーサラウンドソフト再生時は特に効果的です。

● **TV Surround** 5.1ch
テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号を、マルチチャンネルサラウンドで再生します。

● **Sports** 5.1ch
スポーツ中継の視聴に最適です。その場で観戦しているような臨場感を体感できるサラウンド再生です。

● **Advanced Game** 5.1ch
ゲームのスピード感、躍動感をより一層高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

● **Virtual** 2.1ch
フロント左右スピーカーと、サブウーファーだけで、擬似的なサラウンド音声を楽しめます。

● **Ext Stereo (Extended Stereo)** 5.1ch
標準のステレオ（2 チャンネル）音声を加工することなく、ステレオ音声のまま 5.1 チャンネルで再生します。部屋のどの場所でも同じようなステレオ感が得られます。

お知らせ

- アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、サラウンド を押してください。
- サンプリング周波数が 88.2 kHz/96 kHz 以上の音源を再生しているときは、自動的にサラウンドモードの Auto が選択されて、切り換えることができません。
- HDMI コントロール機能に対応したパイオニア製フラットテレビと連動動作をしているときは、テレビ側でアドバンスドサラウンドモードの操作が可能です。

フロントサラウンド・アドバンスモードを選択する

フロントサラウンドセッティングのときに最適な効果を発揮するモードです。

1 アドバンスド を押してリスニングモードを選ぶ

押すたびにモードが切り換わります。

モード表示中に でも切り換えることができます。

- 表示部に **F.S.SURR** インジケーターが点灯します。

● **F.S.S.Focus5.1** 5.1ch
臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。前面に置いた左右のスピーカーから等距離の直線上で視聴してください。

● **F.S.S.Wide5.1** 5.1ch
F.S.S.Focus5.1 よりも横に広い範囲でサラウンド効果が得られます。

● **Extra Power** 5.1ch
より力強いステレオ再生を実現します（マルチチャンネル音声の場合、ステレオにダウンミックスされます）。

お知らせ

- フロントサラウンド・アドバンスモードを解除したいときは、サラウンド を押してください。
- サンプリング周波数が 88.2 kHz/96 kHz 以上の音源を再生しているときは、自動的にサラウンドモードの **Auto** が選択されて、切り換えることができません。
- HDMI コントロール機能に対応したパイオニア製フラットテレビと連動動作をしているときは、テレビ側でフロントサラウンド・アドバンスモードの操作が可能です。

ヘッドホンで聴く

フロントパネルの PHONES 端子にヘッドホンを接続します。
ヘッドホンを差しているときは、Stereo、A.L.C. または PhonesSurround のみ選ぶことができます。

1 ヘッドホンを差す

2 サラウンド で Stereo か A.L.C. のいずれかを、または アドバンスド で PhonesSurround を選ぶ

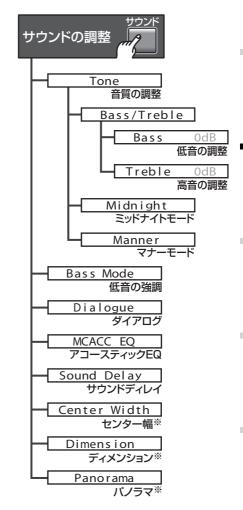
PhonesSurround を選ぶと、ヘッドホンで聴いたときに広がり感のあるサウンドを楽しめます。

お知らせ

- サンプリング周波数が 88.2 kHz/96 kHz 以上の音源を再生しているときは、自動的にサラウンドモードの **Stereo** が選択されて、切り換えることができません。

サウンドの調整をする

選択したリスニングモードの音響効果に、さまざまな音質の調整を加えることができます。各調整項目の詳細は 38 ～ 39 ページをご覧ください。

1. サウンド を押す
2. で各調整項目を選んで決定する
3. で設定内容を選んで決定する

※ サラウンドモードのドルビープロロジック II ミュージックモード選択時のみ設定することができます。

調整項目	設定内容
Tone **音質の調整**	● Bass/Treble 低音と高音の音質をお好みで調整できます。 ● Bass（低音の調整）：－ 6dB ～ ＋ 6dB 再生する曲の低音 (Bass) の音質を調整します。 0dB が標準の音質です。 ● Treble（高音の調整）：－ 6dB ～ ＋ 6dB 再生する曲の高音 (Treble) の音質を調整します。 0dB が標準の音質です。 ● Midnight（ミッドナイト） 音量を小さくすると、サラウンドサウンドが弱くなったり、微小な音が聴こえにくくなることがあります。この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。夜間に音量を小さくして、主にマルチチャンネル音声の映画を楽しむ場合に適しています。 ● Manner（マナー） 夜間に音楽や映画を楽しむとき、突然の爆発音などが大きく出ることがあり、隣室などへ音もれといった迷惑をかけることがあります。この機能は、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくするモードです。 • いずれかの設定を選ぶと、TONE インジケーターが点灯します。 • Midnight や Manner をオフにしたいときは、Bass/Treble を選択します。
Bass Mode **低音の強調** 低音だけを強調して、迫力あるサウンドで再生します。	● Music 音楽を聴くときに適しています。 ● Cinema 映画の重低音を楽しむときに適しています。 ● Auto 音声信号に応じて、本機が自動的に設定を選びます。 ● Off • 低音の強調処理が働いているときは、BASS MODE インジケーターが点灯します。 • ヘッドホンを使用しているときは、低音の強調機能の効果は得られません。
Dialogue **ダイアログ** 通常センタースピーカーから聴こえるセリフを、テレビから聴こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルをはっきりと再生します。	● Mid ダイアログを少し調整します。 ● Max ダイアログを大きく調整します。 ● Auto 音声信号に応じて、本機が自動的に設定を選びます。 ● Off • ダイアログの調整機能が働いているときは、DIALOG インジケーターが点灯します。

調整項目	設定内容
MCACC EQ **アコースティック EQ** サラウンドの自動設定（Auto MCACC）で設定された周波数特性の補正の有効 / 無効を選びます。有効にすることで、チャンネル間の音色の違いを統一させ、再生音のつながりを良くし、音場バランスを改善します。	● **On** Auto MCACC で設定された周波数特性補正を有効にします。 ● **Off** Auto MCACC で設定された周波数特性補正を無効にします。 • アコースティック EQ 機能が働いているときは、**MCACC** インジケーターが点灯します。 • Off を選択したときでも、Auto MCACC で設定されたスピーカーの出力レベルや距離の設定は保持されます。 • ヘッドホンを使用しているときは、アコースティック EQ 機能の効果は得られません。
Sound Delay **サウンドディレイ** DVD ソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます。	● **0 ～ 60** **0** は音声を遅延させません。1 ステップあたり 0.1 フレーム（1 フレームは 1/30 秒）で、**60**（6.0 フレーム）まで遅延させることができます。 • オートディレイの設定が On のときは、選択できません。(49 ページ)
Center Width **センター幅** ドルビープロロジック II ミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。 この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。	● **0 ～ 7** **0** はセンタースピーカーのみからの出力で、**7** はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。 • 本機はデュアルセンタースピーカー方式のため、通常は **3** に設定してください。 • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
Dimension **ディメンション** ドルビープロロジック II ミュージックモード時、リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで、広がりのある音場を創り出すことができます。	● **－ 3 ～ ＋ 3** **－ 3** はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、**＋ 3** は前方の音場が強くなります。 • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
Panorama **パノラマ** ドルビープロロジック II ミュージックモード時、前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	● **On** 前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンド効果を加えます。 ● **Off** サラウンド効果を加えません。 • ドルビープロロジック II ミュージックモード時のみ選択できます。 • マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。

サラウンド再生

圧縮音声を高音質化する（サウンドレトリバー）

WMA、MP3、MPEG-4 AAC などのステレオ圧縮音声を再生するときに効果的です。圧縮音声の削除されてしまった部分の音声を DSP 処理によって補い、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します。

1 サウンドレトリバーを押す

押すたびに、オンとオフが切り換わります。

Retriever On

⇕

Retriever Off

• サウンドレトリバー機能が働いているときは、表示部に **S.RTRV** インジケーターが点灯します。

お知らせ

- マルチチャンネル音声や、サンプリング周波数が 88.2 kHz/96 kHz 以上の音源を再生しているときは、サウンドレトリバー機能を切り換えることができません。
- 上記の音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能の効果は得られません。

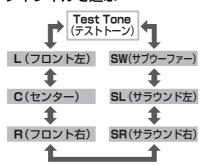
さまざまなサウンドの設定

お知らせ

- 再生している音源や、HDMI 音声設定（49 ページ）の設定などによって、本機の機能が制限されることがあります。このときメニューが表示されないことがあります。

スピーカー出力レベルを設定する

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたりしたいときに、ラジオや外部入力などの音声（またはテストトーン）を聞きながらスピーカーごとに調整できます。
• サラウンドの自動設定 (Auto MCACC)(26 ページ) を行った場合、自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありません。また、この調整を行ったあとに Auto MCACC を行うと、ここでの設定は無効になります。

1. 設定 を押す
2. ◀▶ で [Sound Setup] を選んで決定する
3. ◀▶ で [ChannelLevel] を選んで決定する
4. ◀▶ で出力レベルを調整するチャンネルを選ぶ

5. ▲▼ で各チャンネルの出力レベルを調整する
   出力レベルは、± 10 dB の範囲で調整できます。
6. 手順 4 から 5 を繰り返して、各スピーカーの出力レベルを調整する
7. 決定 を押す

お知らせ

- 手順 4 で Test Tone を選択すると、L → C → R → SR → SL → SW の順番で自動的にテストトーン（ザーという音）が出力されます。**音量＋ / －ボタン**で調整しやすい音量にしてから、手順 5 を行ってください。サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえる場合があります。
- ヘッドホンを差しているときは、ここでスピーカー出力レベルの調整はできません。
- 消音中はテストトーンは出力されません。
- 音量が 51 以上のときは Test Tone を選択できません。
- 音量が 51 以上のときはスピーカー出力レベルの調整範囲が制限されます。
- いずれかのスピーカー出力レベルが＋側に調整されているときは、音量の最大値が制限されます。

スピーカーの距離を設定する

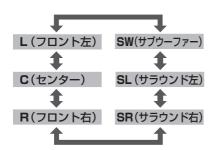
リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定して、音のタイミングのズレを自動的に補正し、リスニングポジションで適切な音場効果を得られます。

• サラウンドの自動設定 (Auto MCACC)(26 ページ) を行った場合、自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありません。また、この調整を行ったあとに Auto MCACC を行うと、ここでの設定は無効になります。

1 設定 を押す

2 決定 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 決定 で [Distance] を選んで決定する

4 で距離を調整するチャンネルを選ぶ

5 で各スピーカーまでの距離を設定する

0.1 m ～ 9.0 m の間を 0.1 m 間隔で設定できます。

6 手順 4 から 5 を繰り返して、各スピーカーまでの距離を設定する

7 決定 を押す

ダイナミックレンジコントロールの設定

音量を下げて映画を楽しむときなどに、ダイナミックレンジを圧縮して微小な音を聞きやすくします。

1 設定 を押す

2 決定 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 決定 で [D.R.C.] を選んで決定する

4 決定 で設定を選んで決定する

- **D.R.C. High**
  ダイナミックレンジを最も圧縮します。
- **D.R.C. Mid**
  ダイナミックレンジを少し圧縮します。
- **D.R.C. Off**
  ダイナミックレンジを圧縮せずに、音声信号をそのまま再生します。

お知らせ

- ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声や DTS 音声などに効果があります。
- 再生しているディスクによっては、効果の少ないものもあります。

デュアルモノの設定

DVD レコーダーなどで録画した二カ国語放送 (ドルビーデジタル 1+1 デュアルモノ音声)や、地上 /BS/CS デジタルチューナーなどの二カ国語番組 (MPEG-2 AAC 1+1 デュアルモノ音声) の音声を本機で楽しむときに、音声選択を行います。

1 設定 を押す

2 決定 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 決定 で [Dual Mono] を選んで決定する

4 決定 で設定を選んで決定する

- **CH1 Mono**
  チャンネル 1 のみを再生します。
- **CH2 Mono**
  チャンネル 2 のみを再生します。
- **CH1/CH2**
  チャンネル 1、2 の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生します。

お知らせ

- MPEG-2 AAC、ドルビーデジタルの 1+1 デュアルモノ音声のときのみ音声を切り換えることができます。
- 再生側の機器のデジタル出力設定がリニア PCM に設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルや MPEG-2 AAC などで出力してください。
- アナログ接続のときはデュアルモノ音声を切り換えることはできません。再生側の機器で切り換えてください。

バーチャルサラウンドバックの設定

サラウンド音声からサラウンドバック音声を創り出し、仮想 6.1 チャンネルの臨場感を楽しめます。

1 設定 を押す

2 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 で [Virtual SB] を選んで決定する

4 で設定を選んで決定する

● Vir.SB On
仮想のサラウンドバック音声を創り出します。

● Vir.SB Off
仮想のサラウンドバック音声を創り出しません。

お知らせ

- バーチャルサラウンドバック機能が働いているときは、V.SB インジケーターが点灯します。
- フロントサラウンドセッティングの場合や、ヘッドホンで聴いているときは、バーチャルサラウンドバックの効果は得られません。
- サラウンド音声が収録されていないソース (シーン) では、仮想のサラウンドバック音声を創り出すことはできません。

LFE アッテネーターの設定

ドルビーデジタルや DTS 音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。

1 設定 を押す

2 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 で [LFE ATT] を選んで決定する

4 で設定を選んで決定する

● 0 dB
LFE レベルを減衰しません。

● −10 dB
LFE レベルを減衰します。

● LFE Off
LFE 信号が出力されません。

CD タイプの設定

再生する CD の種類を選択して、本機で最適に聞こえるようにします。再生機器で DTS-CD を再生しない場合は設定する必要はありません。

1 設定 を押す

2 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 で [CD Type] を選んで決定する

4 で設定を選んで決定する

● Normal CD
DTS-CD を再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常の CD の再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。

● DTS-CD
DTS-CD を再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常の CD を再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

エフェクティブサウンドで楽しむ

本機には、映画や音楽の持つ臨場感を最大限に引き出すエフェクティブサウンドを搭載しています。通常はエフェクティブサウンドでお楽しみください。

エフェクティブサウンドでは、以下のようなパイオニア独自の音響技術を取り入れています。

● **ダイナミックレンジコンプレッション**
暗騒音や生活音などによって埋もれてしまいがちな微細な音を蘇らせ、シーンにいるような雰囲気、臨場感を演出します。

● **周波数特性補正**
付属のスピーカーの特性を加味したうえで、最適な再生特性を実現します。

エフェクティブサウンドをオフにするには

エフェクティブサウンドをオフにする (ダイレクトサウンドを選択する) こともできます。

1 設定 を押す

2 で [Sound Setup] を選んで決定する

3 で [Sound Field] を選んで決定する

4 で [Direct Sound] を選んで決定する

ダイレクトサウンドに切り換わり、DIRECT インジケーターが点灯します。

エフェクティブサウンドをオンにするには、手順 4 で [EffectiveSound] を選んでください。

お知らせ

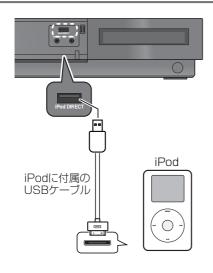
- エフェクティブサウンドを切り換えた場合は、サラウンドの自動設定 (Auto MCACC) を再度行ってください。(26 ページ)

他機器の接続

iPod をつないで再生する

iPod を本機と接続して、iPod の音楽を本機で楽しめます。

お知らせ

- 本機は、第 5 世代以降の iPod や iPod nano、iPod classic、iPod touch の音声に対応しています（iPod shuffle および iPhone には対応していません）。ただし、モデルによっては一部機能が制限されます。
- iPod のソフトウェアが古いと正常に動作しないことがあります。必ず最新の iPod ソフトウェアでお使いください。
- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製･再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- パイオニア製品から iPod のイコライザを操作することはできません。本機に iPod を接続する前に、iPod のイコライザを「オフ」に設定することをお勧めします。
- 本機と iPod を組み合わせてご使用の際、iPod のデータに不具合が生じても、当社は一切の責任を負うことができませんのであらかじめご了承ください。
- 本機での表示は英数字のみとなります。英数字以外の文字が iPod に記録されている場合、その文字は「#」で表示されます。
- iPod に記録されている映像は表示されません。

1 本機の電源をスタンバイ状態にする

2 iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機のフロントパネルにある iPod DIRECT 端子に接続する

iPod の接続については、iPod に付属の取扱説明書もご覧ください。

3 電源 ⏻ を押す

本機の電源がオンになります。

4 iPod を押す

本機が iPod 入力になります。

フロントパネル表示部に「Loading」と表示されて iPod が正しく接続されているかどうか確認します。

- iPod を押したあとに「No Device」と表示された場合は、電源を切ってから本機と iPod の接続をやり直してみてください。

5 トップメニュー を押す

フロントパネル表示部に iPod のトップメニューが表示されて、iPod の操作を本機で行えるようになります。

6 決定 で再生したいカテゴリーを選んで決定する

カテゴリーは以下の中から選びます。

選んだカテゴリーのリストが表示されます。

Playlists　Genres
Artists　Composers
Albums　Audiobooks
Songs　Shuffle Songs
Podcasts

7 決定 で再生したいリスト（ジャンル、アルバムなど）を選んで決定する

でリストのページを切り換え、

でリストを選択します。

8 手順 7 を繰り返して、聞きたい曲を再生する

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは「iPod の再生機能について」（右記）をご覧ください。

iPod の再生機能について

iPod を押すとリモコンが iPod の操作モードになり、リモコンで以下の操作ができます。

ボタン	機能
◦ ▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止 / 一時停止解除します。
◀◀　▶▶	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
❙◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
▶▶❙	次のトラックの先頭に進みます。
🔁	リピート再生を設定します。押すたびに Repeat One、Repeat All、Repeat Off に切り換わります。
🔀	シャッフル再生を設定します。押すたびに Shuffle Songs、Shuffle Albums、Shuffle Off に切り換わります。
表示切換	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
◀ ▶	フォルダー / ファイルリスト画面を表示中にページ送り / 戻しをします。再生中の場合は、前のトラック / 次のトラックに進みます。
▲ ▼	Audiobook を再生中に再生の速さを変更します。 Faster ↔ Normal ↔ Slower
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

準備　設置と接続　基本設定と操作　サラウンド再生　他機器の接続　その他　困ったとき　付録

エラーメッセージについて

フロントパネル表示部にメッセージが表示された場合は、以下の操作を行ってみてください。

メッセージ	意味
Error I1	正常に通信できません。コネクターを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクターを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
Error I2	iPod ソフトウェアのバージョンが古いときに表示されます。iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
Error I3	· 本機が対応していない iPod が接続されています。対応したモデルかどうか確認してください。（46 ページ） · iPod ソフトウェアのバージョンが古いときに表示されます。iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
Error I4	iPod からの応答がありません。iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
iPod Error	iPod の消費電力が大きすぎます。
No Music Track	iPod に曲が入っていません。 iPod に曲を転送してください。
No Track	iPod で選択したカテゴリー内にトラックが入っていません。 他のカテゴリーを選択してください。

iPod の操作を切り換える

iPod の操作を、本機と iPod 本体とで切り換えることができます。

1 コントロール を押す

iPod 本体で操作できるようになり、本体画面が表示されます。本機での操作はできなくなります。

2 もう一度、コントロール を押す

iPod の操作を本機で行えるようになります。

お知らせ

- この機能は、第 5 世代の iPod や第 1 世代の iPod nano には対応していません。

他機器の接続

HDMI 接続で高品位なホームシアターを楽しむ

HDMI 対応機器の非圧縮のデジタル映像や音声を、1 本の HDMI ケーブルで本機に接続して再生できます。デジタルで伝送するため、劣化のない高品質な映像と音声を楽しめます。HDMI ケーブルでの接続については、23 ページをご覧ください。

HDMI 音声設定

HDMI 機器から入力された音声を、本機 (**AMP**) で出力するか、テレビ (**TV**) に出力させるかを選びます。**TV** に設定すると、本機の機能の多くが使用できなくなります。

1 設定 を押す

2 で [HDMI Setup] を選んで決定する

3 で [HDMI Audio] を選んで決定する

4 で設定を選んで決定する

- **AMP**
  HDMI 機器の音声を本機から出力します。
- **TV**
  HDMI 機器の音声をテレビから出力します。本機のスピーカーからは音が出なくなります。

お知らせ

- HDMI 接続した機器によっては、DTS 音声などがテレビに出力されない場合があります。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能で連動動作をしているときは、設定を切り換えることはできません。(51 ページ)

オートディレイの設定

HDMI 接続時に映像と音声のズレを自動的に補正するかどうかを設定します。

1 設定 を押す

2 で [HDMI Setup] を選んで決定する

3 で [Auto Delay] を選んで決定する

4 で設定を選んで決定する

- **A.Delay On**
  ズレを自動的に補正します。
- **A.Delay Off**
  自動補正をしません。

お知らせ

- この機能はリップシンク対応のテレビと HDMI 接続したときのみ有効です。
  自動補正で適切な結果が得られない場合や、きめ細かな調整を行いたい場合は、**A.Delay Off** に設定して、サウンドディレイ (39 ページ) の調整を行ってください。

HDMI 接続で映像が出なくなったとき

HDMI の設定を行ったあとでテレビから映像が表示されなくなった場合は、「故障かな？と思ったら」(60 ページ) をご覧ください。それでも正常に表示されない場合は、以下の手順で本機の HDMI 出力設定を初期化してみてください。

1. 設定 を押す
2. 決定 で [Initialize] を選んで決定する
3. 決定 で [HDMI Init] を選んで決定する
   Initialize OK? と点滅表示します。
4. 初期化してよければ 決定 を押す
   HDMI 出力設定が初期化されて、お買い上げ時の設定に戻ります。

HDMI について

HDMI とは、High-Definition Multimedia Interface の略です。パソコン用ディスプレイなどで使用されている DVI (Digital Video Interface) を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェイス規格で、非圧縮のデジタル映像とデジタルオーディオの伝送を 1 つのコネクタで行えます。このため映像と音声を別々のケーブルで接続する必要がなく、小型のコネクタケーブル 1 本での接続が可能になりました。また著作権保護技術であるデジタル画像信号の暗号化方式である HDCP にも対応しています。

お知らせ

- テレビから映像が出ない場合は、HDMI 機器やテレビの解像度の設定をご確認ください。
- 本機は HDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器に接続した場合、DVI 機器によっては正常に動作しない場合があります（HDCP に対応していない DVI 機器（パソコンのディスプレイなど）には接続できません）。本機の HDMI インターフェースは以下の規格に基づいて設計されています。
  High-Definition Multimedia Interface Specification
  HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

HDMI コントロール機能で HDMI 機器を連動動作させる

HDMI コントロール機能に対応したパイオニア製フラットテレビやブルーレイディスクプレーヤーなどを本機と接続することで、これらの機器との連動動作が可能になります。HDMI コントロール機能で連動できる動作について、詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

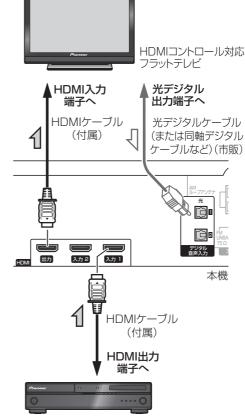
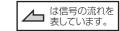
WEB、カタログで使用している [KURO LINK] という機能名称は、取扱説明書および製品での表示は [HDMI Control] または [HDMI コントロール] となっております。

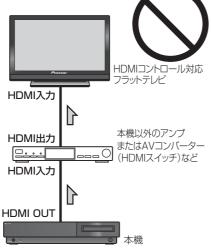
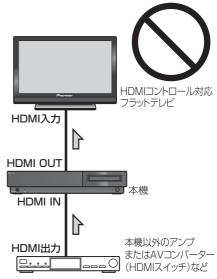
お知らせ

- HDMI コントロール機能に対応していない機器では、ここでの機能を使用することができません。
- パイオニア製ではない機器とは正しく連動動作できないことがあります。
- 市販の一部 HDMI ケーブルでは HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。

HDMI コントロール機器を接続する

本機にはフラットテレビのほかに、2 台まで HDMI 機器を接続して連動動作させることができます。
接続が終わったら、「HDMI コントロールモードを設定する」（53 ページ）を行ってください。

- HDMI コントロール対応機器の接続終了後、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMI に関する初期化動作を約 15 秒間行います。初期化中は HDMI インジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。
  なお、HDMI コントロールモードを **Off** にすると、この処理は行われなくなります。
- 本機の HDMI コントロール機能を十分に発揮するために、HDMI 機器は本機に接続してください。HDMI 機器を本機ではなくフラットテレビに直接接続すると、HDMI コントロール機能が働かないことがあります。

ご注意

- 本機とフラットテレビは直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ）などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。

- 本機のHDMI入力にはソース機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）を直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ）などを接続すると誤動作の原因となります。

HDMI コントロールモードを設定する

本機の HDMI コントロール機能を有効にする設定を行います。
本機の設定以外にも、本機と接続する HDMI コントロール機能に対応した機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。
HDMI コントロール機能対応のパイオニア製フラットテレビ以外と接続する場合は、Control Off に設定することをお勧めします。

1. を押す
2. で [HDMI Setup] を選んで決定する
3. で [HDMI Ctrl] を選んで決定する
4. で設定を選んで決定する

● Control On
HDMI コントロール機能が有効になります。本機の電源をオフにしても、HDMI コントロール機能に対応した入力機器を再生すれば、その映像と音声を HDMI 出力からテレビに出力します。

● Control Off
HDMI コントロール機能は無効になり、連動動作しません。本機の電源をオフにすると、接続した入力機器の映像と音声は HDMI 出力されません。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認を必ず行ってください。

1. すべての機器をスタンバイ状態にする
2. フラットテレビ以外のすべての機器の電源をオンにする
3. フラットテレビの電源をオンにする
4. フラットテレビの入力を HDMI に切り換える
5. 本機の入力を、接続した HDMI 入力のいずれかに切り換える
6. 手順 5 で選んだ HDMI に接続した機器を再生する
   フラットテレビに映像が表示されることを確認します。
7. 手順 5 ～ 6 を繰り返し、すべての HDMI 入力を確認する

アンプ連動モードを使う

フラットテレビのリモコンでアンプ連動モードにすることができます。アンプ連動モードでの動作は以下の説明をご覧ください。これらの機能は、フラットテレビのメニュー画面で設定します。詳しくは HDMI コントロール機能対応のパイオニア製フラットテレビの取扱説明書をご覧ください。
なお、フラットテレビの HDMI コントロール設定が ON で、フラットテレビの電源が入っているときに本機の電源を入れると自動的にアンプ連動モードになります。

アンプ連動モードでの連動動作について

アンプ連動モード使用中は、本機と接続した HDMI コントロール対応機器が以下のように連動動作します。

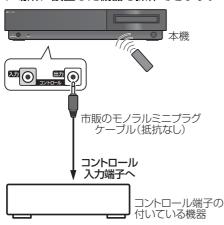
- 本機の音量、消音などを操作したときに、その状態をフラットテレビの画面に表示します。
- HDMI コントロール対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
- HDMI コントロール対応のフラットテレビでチャンネルを切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
- 本機の入力を HDMI 以外に切り換えても連動モードは継続されます。

アンプ連動モードの解除

- アンプ連動モードを解除すると、フラットテレビで HDMI 入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- アンプ連動モードのときに本機の電源を切ることで、アンプ連動モードは解除されます。このとき、再度アンプ連動モードにするには、フラットテレビのリモコンでアンプ連動を選ぶか、本機の電源を入れます。
- アンプ連動モードのとき、フラットテレビのリモコンでフラットテレビから音を出すように操作すると、アンプ連動モードが解除されます。

その他の接続

コントロール端子の付いている機器と接続する

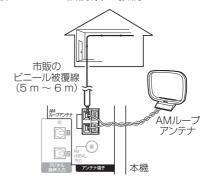
コントロール端子の付いたパイオニア機器と接続すると、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて接続した機器を操作できます（システムコントロール）。
これにより、リモコン受光部がない機器や、リモコン受光部が信号を受けられない場所に設置した機器も操作できます。

お知らせ

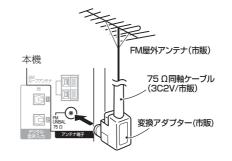
- 接続には市販のモノラルミニプラグケーブル(抵抗なし)を使用してください。
- 本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずアナログ音声コードまたはHDMIケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。
- 本機のコントロール入力端子と他の機器のコントロール出力端子を接続すると、その機器のリモコン受光部にリモコンを向けて本機を操作できます。
- コントロール入力端子にプラグを接続した機器のリモコン受光部は、信号を受け付けません。

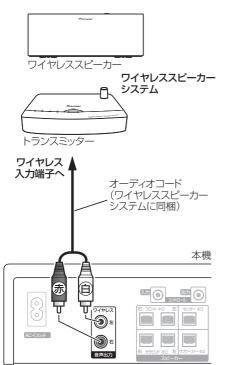
外部アンテナを接続する

付属のAMループアンテナやFM簡易アンテナでは放送がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。

AM外部アンテナをつなぐ

付属のAMループアンテナを接続したまま、下図のようにAM外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を接続してください。

FM屋外アンテナをつなぐ

市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように市販のFM屋外アンテナを接続してください。

別売りのワイヤレススピーカーを接続する

別売りのワイヤレススピーカーシステム「XW-1」を本機に接続することができます。

本機のワイヤレス音声出力端子とトランスミッターのワイヤレス入力端子を接続します。ワイヤレススピーカーの接続や設置について、詳しくはワイヤレススピーカーシステムの取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスモードを切り換える

ワイヤレススピーカーの使用方法によって、ワイヤレスモードを選択してください。詳しくは、ワイヤレススピーカーシステムの取扱説明書もご覧ください。

1. 設定 を押す
2. で [Sound Setup] を選んで決定する
3. で [Wireless] を選んで決定する
4. で設定を選んで決定する

- **W.Normal**
  ノーマルサラウンド
- **W.Wide**
  ワイドサラウンド
- **W.Left**
  左サイドサラウンド
- **W.Right**
  右サイドサラウンド
- **W.Stereo**
  ステレオ
- **W.Off**
  オフ

お知らせ

- ワイヤレススピーカーを使用しないときは、W.Off に設定してください。
- W.Normal、W.Wide、W.Left または W.Right のいずれかを選択しているときは、(W)インジケーターが点灯します。また、W.Stereo を選択しているときは、(W)インジケーターが点滅します。

いろいろな機能を使う

本機の便利な機能や、システムの設定を行います。

スリープタイマー

約 60 分後に自動的に電源が切れます。ラジオを聞きながら眠ったりするときに便利です。

1 設定 を押す

2 決定 で [System Setup] を選んで決定する

3 決定 で [Sleep Timer] を選んで決定する

4 決定 で [Sleep On] を選んで決定する

スリープタイマーが設定されてインジケーターが点灯し、表示部が暗くなります。

途中で取り消す場合は、手順４で Sleep Off を選びます。

お知らせ

- スリープタイマー設定後に、上記の手順 1 ～ 3 の操作をすると、電源が切れるまでのおおよその時間を確認できます。

Sleep ----

ひと目盛りは、12分を表しています。

表示部の明るさを変える

フロントパネル表示部の明るさを変えることができます。

1 設定 を押す

2 決定 で [System Setup] を選んで決定する

3 決定 で [Dimmer] を選んで決定する

4 決定 で設定を選んで決定する

● Dimmer Light
お買い上げ時の表示部の明るさです。
スリープタイマーが設定されているときは、表示部は暗くなります。

● Dimmer Dark
表示部が暗くなります。

表示部の設定を変える

本機を 1 分間操作しなかったときは、表示部とインジケーターが消灯します。フロントパネルのモーションセンサーが人の動きを察知すると、再び表示します。
常に表示させておくように設定を変更できます。

1. 設定 を押す
2. 決定 で [System Setup] を選んで決定する
3. 決定 で [Display Mode] を選んで決定する
4. 決定 で設定を選んで決定する

● Auto Display
1 分間操作がないと消灯します。

● Display On
常に表示します。

キーロック機能

小さなお子さまのいるご家庭での、いたずら防止に便利な機能です。リモコンの操作は可能です。

1. 設定 を押す
2. 決定 で [System Setup] を選んで決定する
3. 決定 で [Key Lock] を選んで決定する
4. 決定 で設定を選んで決定する

● Lock Off
本体での操作が可能です。

● Lock On
本体ですべての操作ができなくなります。

設定内容を初期化する

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。

1 設定 を押す

2 ◀決定▶で [Initialize] を選んで決定する

3 ▲決定▼で [All Init] を選んで決定する

Initialize OK? と点滅表示します。

4 初期化してよければ 決定 を押す

設定した内容が初期化されて、お買い上げ時の設定に戻ります。

本機に記憶される設定一覧

以下の機能の設定値は、電源コードを抜いても記憶されます。

設定項目	表示	ページ
本機の入力設定	[HDMI1]、[Digital1] など	29
リスニングモード	[Auto]、[Action] など	33
音質の調整	Bass、Treble、Midnight、Manner	38
低音の強調	Bass Mode	38
ダイアログ	Dialogue	38
アコースティック EQ	MCACC EQ	39
サウンドディレイ	Sound Delay	39
センター幅	Center Width	39
ディメンション	Dimension	39
パノラマ	Panorama	39
サウンドレトリバー	[Retriever On]、[Retriever Off]	40
スピーカー出力レベル	ChannelLevel	41
スピーカーの距離	Distance	42
ダイナミックレンジコントロール	D.R.C.	43
デュアルモノ	Dual Mono	43
バーチャルサラウンドバック	Virtual SB	44
LFE アッテネーター	LFE ATT	44
CD タイプ	CD Type	45
エフェクティブサウンド / ダイレクトサウンド	Sound Field	45
表示部の設定	Display Mode	58
テレビ音声入力	TV Input	29
HDMI 音声設定	HDMI Audio	49
オートディレイ	Auto Delay	49
HDMI コントロールモード	HDMI Ctrl	53
ワイヤレスモード	Wireless	56
放送局の記憶	-	31

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器(テレビなど)もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』(65ページ）をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
音が出ない、または特定のスピーカーから音が出ない。	すべてのコードが完全に接続されていますか。	「本機を接続する」(18ページ) を参照して、正しく接続してください。
	ステレオ再生になっていませんか。	ステレオ再生の場合は、センターおよびサラウンドスピーカーからは音が出ません。リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生にしてください。
	消音状態になっていませんか。	リモコンの**消音ボタン**を押して、音量を元に戻してください。
	プレーヤー(入力機器)が対応していないフォーマットのソフトを再生していませんか。	プレーヤーの取扱説明書を確認してください。
	HDMI音声設定が**TV**になっていませんか。	本機から音声を出力する場合は**AMP**に切り換えてください。(49ページ)
	本機が対応していないフォーマット(MP3など)の信号を入力していませんか。	本機が対応しているフォーマットはドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCM、SACD（DSD）です。
	外部機器の音声出力またはHDMIの設定は正しいですか。	外部機器と光デジタルケーブル、同軸デジタルケーブルまたはHDMIケーブルで接続している場合、外部機器の音声出力またはHDMIの設定を確認してください。 また、DVI機器とHDMIケーブルで接続している場合、音声は出力されません。
すべてのスピーカーから音が出ない。	((W))インジケーターが点滅していませんか。	ワイヤレスモードを**W.Stereo**に設定しているときは、ワイヤレススピーカーのみ音声が出力されます。 ワイヤレススピーカーを使用しない場合は、**W.Off**に設定してください。(56ページ)
サラウンドスピーカーから音が出ない。	((W))インジケーターが点灯していませんか。	ワイヤレスモードを**W.Normal**や**W.Wide**、**W.Left**、**W.Right**のいずれかに設定しているときは、ワイヤレススピーカーからサラウンド音声が出力されます。 ワイヤレススピーカーを使用しない場合は、**W.Off**に設定してください。(56ページ)

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
別売りのワイヤレススピーカーから音が出ない。	((W))インジケーターが消灯していませんか。	ワイヤレスモードを **W.Off** に設定されているときは、ワイヤレススピーカーから音声は出力されません。 ワイヤレススピーカーを使用する場合は、適切なワイヤレスモードとリスニングモードを選択してください。
	F.S.SURR インジケーターが点灯していませんか。	フロントサラウンド・アドバンスモードを選択しているときは、ワイヤレスモードを **W.Normal** や **W.Wide**、**W.Left**、**W.Right** に設定していても、ワイヤレススピーカーから音声は出力されません。適切なリスニングモードを選択してください。
	適切なリスニングモードを選択していますか。	**Stereo** や **A.L.C.**、**Virtual** を選択しているときは、ワイヤレススピーカーから音声は出力されません。 また、**Auto** を選択していて **STEREO** インジケーターが点灯している場合も、ワイヤレススピーカーから音声は出力されません。
	ヘッドホンが接続されていませんか。	ヘッドホンを接続しているときは、ワイヤレススピーカーから音声は出力されません。
テストトーンがまったく出ない、または出ないスピーカーがある。	スピーカーの接続が外れていませんか。	スピーカーコードが正しく接続されているか、もう一度確認してください。
FM/AM 放送が聞こえない、聞き苦しい。	アンテナは接続されていますか。	アンテナを正しく接続してください。
	アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか。	アンテナの向きや位置を調整してください。
	電気器具（蛍光灯、ドライヤーなど）を使用していませんか。	ノイズを発生させる機器の使用をやめてください。
FM ステレオ放送がステレオで聞こえない。	表示部に「○」が点灯していませんか。	FM Auto/Mono の設定を **FM Auto** にしてください。(30 ページ)
接続したデジタル機器からの音が出ない。	ケーブルの接続は正しいですか。	光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルが正しく接続されているか、もう一度確認してください。
	本機の入力を切り換えましたか。	**LINE ボタン**を繰り返し押して、入力を Digital 1 OPT、Digital 2 OPT または Digital 3 COAX の接続した端子に切り換えてください。
接続したアナログ機器 (テレビなど) の音が本機から出ない。	ケーブルの接続は正しいですか。	音声ケーブルが正しく接続されているか、もう一度確認してください。
	本機の入力を切り換えましたか。	**LINE ボタン**を繰り返し押して、入力を Analog に切り換えてください。

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
リモコンが効かない。	リモコンの電池は消耗していませんか。	新しい電池に換えてください。このとき、設定したテレビメーカーコードが消える場合があります。28 ページを参照して、もう一度やり直してください。
	蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか。	蛍光灯をリモコン受光部から離してください。
	リモコンの操作範囲の外から操作していませんか。	リモコン受光部から 7 m 以内、左右 30° 以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。
	リモコン受光部とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。
	コントロールケーブルでつないでいる場合、音声コードの接続も行っていますか。	本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずアナログ音声コードまたは HDMI ケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。
	本体のタッチセンサーの上に物が置かれていませんか。	タッチセンサーを押したままの状態となり、リモコン操作ができません。アクションインジケーターが点灯している場合は、置かれている物を取り除いてください。
フロントパネルの表示やインジケーターが消えてしまった。	表示部の設定を Auto Display にして、本機を操作しないで時間がたっていませんか。	Auto Display に設定していて、本機を 1 分間操作しないとフロントパネルの表示やインジケーターが消灯します。何か操作をすると再び点灯します。 Display On に設定すると、常に点灯します。(58 ページ)
モーションセンサーが働かない。	モーションセンサーの感知する範囲を外れていませんか。	モーションセンサーは、40°（上方向は 20°）、2.5 m以内の距離で人の動きを感知します。ただし、本機に向かってくる人の動きは 0.7 m 以内で感知します。
	直射日光の当たる場所やストーブの近くに設置していませんか。	モーションセンサーは体温による赤外線の移動を感知するため、直射日光やストーブなどの高発熱体の影響によっては正しく動作しないことがあります。設置場所を変えてみてください。
	本機を床の近くに設置していませんか。	本機を床から 25 cm 以上離して設置してください。床の近くに置くと、正しく感知できないことがあります。
	本機をラックの中に設置していませんか。	密閉されたラック（ガラス製などを含む）の中に設置すると、センサーは正しく働きません。
設定した内容が消えてしまった。	本機の電源がオンのときに強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。	電源コードを抜くときは、必ず本体の ⏻**STANDBY/ON ボタン**またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**を押して、フロントパネル表示部の [--Off--] 表示が消えてから行ってください。特に、他機器の AC アウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。
動作しない。	電源コードが外れていませんか。	電源コードを正しく接続してください。

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
電源が入らない、または電源が突然オフになった。 （再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります。）	ー	電源コードを抜かずに、1 分後に再び本体の ⏻**STANDBY/ON ボタン**またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**を押して電源を入れてみてください。
	スピーカーコードがショート（接触）していませんか。	スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。
	本機のまわりに十分なスペースが空いていますか。	通風が良くなるように設置をかえてみてください。
	大音量で聞いていませんか。	少し音量を小さくしてみてください。
	表示部の設定が Auto Display となっていて、表示が消えていませんか。	何か操作をすると再び表示します。 常に表示をさせるには表示部の設定を Display On にしてください。（58 ページ）
		上記の対策を行っても症状が改善されないときは、最寄りの弊社サービスステーションにご連絡ください。

HDMI 関連

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
映像と音声の両方が出ない。	接続した機器は HDCP に対応していますか。	本機は HDCP に対応しています。接続した機器が HDCP 対応かどうかをご確認ください。
音声が出ない。またはとぎれる。	HDMI 音声設定が TV になっていませんか。	AMP に設定してみてください。（49 ページ）
	DVI 機器と接続していませんか。	別途、音声ケーブルの接続をしてください。
	ソース機器の設定は正しいですか。	ソース機器の設定を確認してください。
HDMI コントロール機能が働かない。	正しく接続されていますか。	HDMI ケーブルで正しく接続してください。
	HDMI コントロールモードの設定は正しいですか。	HDMI コントロールモードを Control On に設定してください。（53 ページ）
	接続した機器は HDMI コントロールに対応していますか。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、HDMI コントロールに対応しているか確認してください。
		パイオニア製ではない機器とは正しく連動動作できないことがあります。
勝手に電源がオフになる。（HDMI コントロール機能による連動動作時）	テレビの操作をしていませんか。	連動動作しているテレビの電源をオフにしたり、音声の切り換えをしたりすると、本機の電源がオフになることがあります。テレビの操作と連動して本機の電源をオフにしたくないときは、HDMI コントロールモードを Control Off に設定してください。（53 ページ）
勝手に電源がオンになる。（HDMI コントロール機能による連動動作時）	テレビの操作をしていませんか。	連動動作しているテレビの操作で、本機の電源がオンになることがあります。テレビの操作と連動して本機の電源をオンにしたくないときは、HDMI コントロールモードを Control Off に設定してください。（53 ページ）

こんな表示が出たときは

- iPod を接続しているときに表示されるメッセージについては、48 ページをご覧ください。

表示	意味
192 kHz PCM	サンプリング周波数 176.4 kHz/192 kHz リニア PCM 信号を入力しているときに、使用できない機能を使用しようとすると表示されます。
2ch Only	マルチチャンネル音声再生時に、ステレオ音声のみに有効な機能を操作したときに表示されます。
96 kHz PCM	サンプリング周波数 88.2 kHz/96 kHz リニア PCM 信号を入力しているときに、使用できない機能を使用しようとすると表示されます。
Error MIC!	サラウンドの自動設定 (Auto MCACC) で、MCACC セットアップ用マイクが接続されていないか、正しく接続されていないときに表示されます。
Error Speaker!	サラウンドの自動設定 (MCACC) で、スピーカーが接続されていないか、正しく接続されていないときに表示されます。
Exit	メニュー画面表示中に禁止されている信号が入力されたときや、ヘッドホンが挿入されたときに表示され、通常表示に戻ります。
HDCP ERROR	HDCP に対応していない機器が接続されているときに表示されます。HDCP に対応した機器でも表示されることがありますが、映像がとぎれなく出力されているときは不具合ではありません。
HDMI Audio <TV>	HDMI 音声設定が **TV** になっているときに、音量やリスニングモード、音質設定などを行おうとしたときに表示されます。
HDMI C.ERR 1**	HDMI ケーブルの接続を確認してください。もし HDMI ケーブルが正しく接続されている場合、本機が故障している可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。
Key Lock	ボタン操作がロックされています。詳しくは「キーロック機能」(58 ページ) をご覧ください。
Muting	消音中に使用できない機能を使用しようすると表示されます。
No MIC	MCACC セットアップ用マイクを接続していない状態で、**MCACC ボタン**を押したときに表示します。
Noisy!	サラウンドの自動設定 (Auto MCACC) で、部屋の騒音が大きいときに表示されます。
Not support	映像信号とテレビの能力が合っていないときに表示されます。 接続した機器の解像度や DeepColor の設定などを変更してみてください。
Phones In	ヘッドホンを差しているときに、使用できない機能を使用しようすると表示されます。
W.Stereo	ワイヤレスステレオモード時に、使用できない機能を使用しようすると表示されます。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は必ず「お買い上げ店名・お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は 68 ページの「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

60 ～ 64 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名 : 5.1 ch サラウンドシステム
- 型番 : HTP-LX51
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お願い

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。

ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026_A_Ja

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆北海道サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東北サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1 F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東関東サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX 047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆北関東サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX 025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX 045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆中部サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX 054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話番号	〒	住所
☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービス認定店	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話番号	〒	住所
☆中四国サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話番号	〒	住所
☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点		電話番号	〒	住所
沖縄サービスステーション	TEL	098-879-1910	〒901-2113	浦添市大平2-2-6　ひろえハイツ102
	FAX	098-879-1352		

平成20年5月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■ 0120−944−222　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーハイオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成20年5月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.028

おもな仕様

レシーバー部（SX-LX51）

アンプ部	実用最大出力（JEITA）	フロント（L/R）	100 W/ch（1 kHz、10 %、4 Ω）
		センター（C）	100 W（1 kHz、10 %、4 Ω）
		サラウンド（L/R）	50 W/ch（1 kHz、10 %、8 Ω）
		サブウーファー	100 W（100 Hz、10 %、4 Ω）
チューナー部	FM チューナー	受信周波数	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
		アンテナ	75 Ω不平衡型
	AM チューナー	受信周波数	522 kHz ～ 1629 kHz
		アンテナ	ループアンテナ
入出力端子	HDMI	入力	19 ピン × 2
		出力	19 ピン（5 V、55 mA）× 1
	音声入力		光デジタル（角型光ジャック）×2 同軸デジタル（RCA 端子）× 1 アナログ（RCA 端子）× 1
	ワイヤレススピーカー用出力		アナログ（RCA 端子）× 1
	コントロール端子		入力 × 1、出力 × 1 (ミニジャック)
	iPod 端子		iPod 接続用端子（5 V、500 mA）× 1
	MCACC セットアップ用マイク端子		ミニジャック × 1
電源部	電源電圧		AC100 V、50 Hz/60 Hz
	消費電力		60 W
	スタンバイ消費電力		0.5 W（HDMI コントロールオン） 0.25 W（HDMI コントロールオフ）
外形寸法			420 mm × 80 mm × 364 mm （幅）×（高さ）×（奥行）
質量			4.8 kg
許容動作温度			＋ 5 ℃ ～ ＋ 35 ℃
許容動作湿度			5 % ～ 85 %（結露のないこと）

スピーカー部（SSP-LX61）

フロントスピーカー		
型式		密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	ウーファー	5.2 cm（コーン型）×2
	ツイーター	2.6 cm（セミドーム型）× 1
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		200 Hz ～ 20 kHz
最大入力		100 W（JEITA）
外形寸法		80 mm（幅）× 196.8 mm（高さ）× 82 mm（奥行）
質量		1.02 kg
センタースピーカー		
型式		密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー		5.2 cm（コーン型）× 1
インピーダンス		8 Ω
再生周波数帯域		200 Hz ～ 20 kHz
最大入力		50 W（JEITA）
外形寸法		80 mm（幅）× 80 mm（高さ）× 82 mm（奥行）
質量		0.48 kg
サラウンドスピーカー		
型式		密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	ウーファー	5.2 cm（コーン型）× 1
	ツイーター	2.6 cm（セミドーム型）× 1
インピーダンス		8 Ω
再生周波数帯域		200 Hz ～ 20 kHz
最大入力		50 W（JEITA）
外形寸法		80 mm（幅）× 115.8 mm（高さ）× 82 mm（奥行）
質量		0.60 kg
サブウーファー		
型式		バスレフ式フロア型
使用スピーカー		18 cm（コーン型）× 1
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		25 Hz ～ 1500 Hz
最大入力		100 W（JEITA）
外形寸法		211 mm（幅）× 320 mm（高さ）× 358 mm（奥行）
質量		6.50 kg

お知らせ

・ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ご注意

・ 本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車両、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

付録

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

異常時の処置

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

- 万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

- 放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。
  また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは２人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示 (プラス (＋) マイナス (−) の向き) に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- ５年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの近くに本機を設置しないでください。また、カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

注 意

本機を設置する場合には、壁から10 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から10 cm以上、側面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

次のような場所は避けてください

・直射日光のあたる所
・湿気の多い所や風通しの悪い所
・極端に暑い所や寒い所
・振動のある所
・ホコリの多い所
・油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。
D3-4-2-1-7c_Ja

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど熱を発生する機器の近くに設置しないでください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聴くのも１つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、付属のクリーニングクロスで軽くから拭きしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

付録

用語解説

ドルビー

DOLBY
DIGITAL
PRO LOGIC II

ドルビーデジタル

DVD の標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在主流となっている 5.1 チャンネルサラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル (5.1 チャンネルサラウンド) で記録されているソフトとは、5 つのチャンネル個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことをいいます。

ドルビープロロジック

2 チャンネルサラウンド信号や 2 チャンネルステレオ信号をマルチチャンネルサラウンドで再生するための技術です。2 チャンネルサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2 チャンネルステレオ信号については 2 チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を創り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため､左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック II は、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を 5.1 チャンネルに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン 5 チャンネルを創り出します。

CD のような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート 5.1 チャンネルに匹敵する移動感をも実現できます。

プロロジックとプロロジック II の違い

	プロロジック	プロロジック II
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1 チャンネル（サラウンドモノラル）	5.1 チャンネル（サラウンドステレオ）
周波数特性	サラウンド 7 kHz 帯域制限	全チャンネルフルバンド

DTS

DTS とは DTS 社の 5.1 ch デジタル・サラウンド録音再生方式のことで、DVD ビデオのオプション音声タイプとして認められています。DTS デジタル・サラウンドで記録されたDVD ソフトも、ドルビーデジタル (5.1 ch サラウンド) で記録されているソフトと同様に 5.1 ch で音声を楽しむことができます。

米国特許 5451942 号、5956674 号、5974380 号、5978762 号、6487535 号、または、米国およびその他の国での登録済み特許、または特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS および DTS Digital Surround は DTS 社の登録商標であり、また、DTS のロゴおよび記号は DTS 社の商標です。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 オーディオの標準方式のひとつで、BS デジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236
5848391	4,914,701
5,291,557	5,235,671
5,451,954	07/640,550
5 400 433	5,579,430
5,222,189	08/678,666
5,357,594	98/03037
5 752 225	97/02875
5,394,473	97/02874
5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788
5,633,981	5,285,498
5,481,614	5,490,170
5,592,584	5,264,846
5,781,888	5,268,685
08/039,478	5,375,189
08/211,547	5,581,654
5,703,999	05-183,988
08/557,046	5,548,574
08/894,844	08/506,729
5,299,238	08/576,495
5,299,239	5,717,821
5,299,240	08/392,756
5,197,087	

AAC ロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

さくいん

本機を操作するときの主な用語や表示をまとめました。
参照ページに進むと、それぞれに関連する情報があります。

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

アルファベット

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。左記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、左記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

パイオニア株式会社

〒 153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<XRA3051-A>